

令和6年度 小林市立南小学校 自己評価書

評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

NO. 1

学校経営ビジョン ○ 南小学校の伝統を大切に、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。
令和6年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』

〈知 育〉 ○ 主体的に学び確かな学力を身に付けた児童の育成

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
知 育	1 授業の充実 「思考力・判断力・表現力育成」 「ICT・タブレット活用」 「全員参加の授業」「習熟を図る場面等の拡充」	○ 「学びたい度」…70% ①学校に行くのは楽しいか。 ②将来の夢や希望はあるか。 ③地域や社会の問題や出来事に関心があるか。 ④人の役に立つ人間になりたいか。 ※ R5…54%	◎ 「学びたい度」は64% ○ 研究主任を中心に全員で児童の「思考力・判断力・表現力」「自発的・自主的な姿」を高めるための手立てなどを研究している。 ○ 基礎学力の定着（四則計算）を図るために、朝の時間や授業中に習熟の時間を確保している。 ○ 各教科の授業においてICT機器の活用を積極的に進めている。	3.31		・ 授業に落ちていく集中する子どもたち、苦手なこともにもあきらめずに取り組む子供たちが増えている。 ・ 研究主任のアイデアで研修を楽しく、負担なく実施することができた。研究の焦点化を図り、さらに授業づくりの学びを深めたい。 ・ 思考力・判断力・表現力育成や「習熟を図る場面等の拡充」はこれからも継続して研修を深めて育必要がある。
	2 家庭学習の充実 「精選」 「タブレット持ち帰りによる宿題：水曜日」	○週末の宿題の原則廃止 ○宿題をしない児童の減少 ○タブレット持ち帰り毎週実施	○ 平日の宿題の提出状況がよくなっている。 ○ 週末に自分の課題や興味関心等による主体的な宅習に取り組む児童が増えた。 ○ タブレット持ち帰りによる宿題を、3年生以上で毎週水曜日に実施することができた。 ○ タブレットドリルを導入したことにより、家庭学習でも効果的に活用できている。	3.37		・ 週末宿題をなくしたことで、平日の宿題の提出率が良くなっている。平日のみの宿題を今後も続けて欲しい。 ・ 適度な家庭学習でよい能力が高い子ども達へ、もう少し負荷をかけてもいいのではないかと感じる。 ・ タブレットはスマイルネクストになりやすくなった。ただ、毎日持ち帰りとかになると厳しいと感じる。
	3 読書活動の充実 「家庭と連携した読書」 「読み聞かせ」 「新聞活用」	○ 「年間図書貸出冊数」…1人平均150冊以上 ※ R5…173冊/1人	◎ 「図書貸し出し冊数」125冊/1人（1月末） ◎ 100冊以上184人、90冊以上198人（1月末現在） ○ 図書主任と学校図書館協力員との連携及び委員会活動の充実により、主体的な読書活動が定着してきた。	3.08		・ 家庭学習の取組が、保護者にとってゆっくり読書をする機会になっていた。 ・ 学級によって、貸出数に差がある。 ・ 新聞活用があまりできなかった。
	4 学力調査等の活用 「分析を生かした指導」 「過去出題問題の活用」 「情報量の多い問題の積極活用」	○ 「全国学テ（6年）」「みや学テ（5年）」「CRT」全教科 国・県・市平均超え ※ R5 [全国テ]：国69%→国・県・市平均以上 算56%→国・県・市平均以下	◎ 全国学力テスト（6年） 国語63%→国・県・市平均上回り 算数56%→国・県・市平均下回り ◎ みやざき学習状況調査（4年） 国語75.7%→県平均上回り 算数60.8%→県平均上回り ◎ 単元テスト平均点 86.3点（80点を下回る学級なし）	2.93	3.29	・ 単元テストは目標平均は超えているが、個人差があり、個人差が大きい。 ・ 国語や算数の授業で、学力調査やCRTを意識した問題（発問）を設定した。 ・ 宿題等で学力調査に向けての指導をしているが、解説等が必要でその時間設定が難しい。

知 育		<p>みやテ：国58%・算59% →県平均以下</p> <p>CRT：現6年のみ全国平均以下</p>	<p>○ 職員研修で結果分析や調査問題を実際解くことで、本校の児童に身に付けさせなければならない力を共通理解し、授業等の工夫を行うようにしている。</p> <p>※ 今年度から「みや学テ」の実施方法がCBT形式となった。(タブレットを使用してのテスト)</p>		<ul style="list-style-type: none"> 教科書の問題をするので精一杯で応用問題、活用問題の時間を確保するのが難しい。
	5 特別支援教育の充実 「特別支援教育支援員や学校非常勤講師の有効活用」		<p>○ 教育支援教育委員会や特別支援教育支援員からの情報を共有し、困り感のある児童の支援の仕方について組織的な対応を行っている。</p> <p>○ 特別支援学級における指導が充実し、児童にも変容がみられる。</p>	3.36	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて支援員の先生が入って個別に支援をしていただけるのでありがたい。 支援学級の児童に関する担任同士や支援員との連絡・連携が不足して問題が起きた場面がいくつかあったので、今後、密に連携できる体制の改善が必要である。
	6 学習のしつづけの徹底 「授業」「家庭学習」	<p>○正しいえんぴつ握り80%以上</p> <p>※ R5…50.2%</p>	<p>○ 授業中の態度は非常に落ち着いている。</p> <p>◎ 正しいえんぴつ握り(低学年)60.6%(1月末)</p> <p>昨年度より改善しているが、癖がついた握り方を直すのは家庭との連携も必要になってくる。</p>	2.80	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学習に対する取り組み方は、身に付いてきている。 鉛筆の正しい握り方の声掛けを継続して行っているが、なかなか正しく持つことができない。 鉛筆の持ち方については、幼保小連携及び家庭を巻き込んで取り組む必要がある。
	7 一部教科担任制等による指導の充実 「交換授業」「各種専科」等	<p>○「交換授業」</p> <ul style="list-style-type: none"> 5年：社会×家庭・書写 6年：社会×理科 <p>○「各種専科」</p> <ul style="list-style-type: none"> 3～6年：体育・音楽・外国語・理科、5・6年図工 	<p>○ 教員の専門性等を生かした指導により授業が充実し、授業準備の効率化等も図られている。</p> <p>○ 中学校への接続の観点からも意義がある。</p> <p>○ 本来であれば、3年生から理科の授業は専科になるが、教員不足により学級担任が指導している。教員不足の状況改善が望まれる。</p>	3.60	<ul style="list-style-type: none"> 一部教科担任制は学年の児童理解の充実や教材研究を深められ大変良かった。 専科の時間に主要教科の準備ができた、教材研究の負担が減ったりするなど、働き方改革にもつながっている。 子どもたちをいろいろな先生に見ただけなのがありがたい。
	8 キャリア教育の充実 「小林キャリア教育センター」「KSSVC」「地域人材・団体」「学習支援ボランティア」の活用等	<p>○南校区まちづくり協議会や南校区社会福祉協議会との連携</p>	<p>○ 安武信吾氏講演、七夕飾り作り、昔の遊びフェスティバル、南小まつり、南校区社会福祉協議会の図書贈呈等の、豊かな体験活動を地域の方の協力で実施することができた。</p> <p>○ 今後は、味覚の授業、児童を対象とした食育のドキュメンタリー映画上映、玉名高校ブラスバンド部演奏会等に取り組む。</p> <p>○ 土・日に実施される地域の行事に参加する児童も増えてきている。(火ばさみウォーキング、グランドゴルフ等)</p>	3.51	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携することで、豊かな体験活動を充実させることができた。 学習支援ボランティアの方々にくさん助けていただけてありがたい。

令和6年度 小林市立南小学校 自己評価書

評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

NO. 2

学校経営
ビジョン

○ 南小学校の伝統を大切に、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。
令和6年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』

〈徳育〉

○ 思いやりの心をもち、自ら実践する児童の育成

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
徳育	1 望ましい生活に関する指導の充実 「きまり」「生活習慣」「礼節」	○ 「あいさつ」「返事」「履き物そろえ」「無言清掃」の徹底指導	○ 「あいさつ」「返事」「履き物そろえ」の徹底を合言葉に指導をおこなっている。学校内だけでなく地域でもしっかりとあいさつができる児童の育成を目指している。あいさつはもちろん、会釈もしっかりとできる児童が育っている。履き物そろえも各学級で係の児童が毎日点検するなど、意識が高まっている。 ○ 清掃時間は、縦割り班の導入により、児童一人一人が無言で時間いっぱい清掃を行う姿が見られる。 ○ 「みなみっ子の日」を使って学校のきまりを確認し、落ち着いた学校生活がおくれるように指導しているが、多様化する考え方に対応する難しさを感じることもある。	3.44	3.38	・ ほとんどの児童は、生活習慣もしっかり身につけている。あいさつは、まだまだ個人差が大きい。だんだんよくなっていると感じる。家庭環境により基本的な生活習慣が身に付いていない児童もいる。 ・ きまりの部分で少しルーズになったところがあった気がする。もちろん、きまりは児童の実態や時代によって変えるべきものだが、決まったものは全職員で足並みそろえて指導していく必要がある。
	2 道徳教育・人権教育の充実 「道徳の授業」「情報モラル」「言語環境」	○ 「道徳の時間の指導」「情報モラル教育」の充実	○ 道徳の時間の指導を計画的、系統的に実施し、道徳実践力の育成を図っている。 ○ 「西諸人権の日」に合わせ、7月の参観日では人権に関する学習の授業参観を実施した。12月には人権週間を設定し、人権教室や人権研修を実施する。 ○ 情報モラル教育については、警察署が実施している非行防止教室を活用し、6年生を対象に指導している。	3.23		・ 道徳の授業は、計画的に進めることができた。 ・ 児童同士や教師から児童への「呼び捨て」が気になった。人権教育をしっかりと行い、言語環境を整える必要がある。 ・ 情報モラル、メディアリテラシーの指導を充実させていく。
	3 問題行動等に関する指導の徹底	○ いじめ認知解消率100%、不登校率0% ※ R5…いじめ認知件数40件中22件解消 不登校傾向5名中4名解消	◎ いじめ認知件数【37件】いじめ解消件数【22件】 ◎ 不登校児童【3件】(1月末) ○ 毎月アンケートを実施し、問題行動の早期発見、早期解決に努め、「いじめ不登校対策会議」を開催し、全職員で共通理解を図っている。 ○ 連絡のない欠席児童や不登校傾向の児童に細やかに連絡をとり、保護者にも寄り添う姿勢で対応している。 ○ 関係機関とも積極的に連絡をとり、組織的な対応を取るようになっている。	3.36		・ 不登校やいじめについては、「いじめ不登校対策会議」で、共通理解でき、迅速な対応ができてきている。 ・ 不登校児童の対応については、関係機関とも連携して、支援体制を整える必要がある。 ・ いじめ認知解消がなかなか進まないのが残念であるが、アンケート等をもとに子どもたちの気持ちに寄り添い、不安や悩みを解消している必要がある。
	4 主体的な活動の推進 「清掃」「係活動」「委員会活動」「ボランティア活動」	○ 係、委員会活動、ボランティア活動の充実	○ 委員会活動やボランティア活動では、自分たちでできることを考えて、主体的に行う児童が増えている。子どもたちのアイデアを大切に、よりよい南小学校を作り上げていく活動を推進している。	3.51		・ 委員会活動はどの委員会も充実していた。 ・ チャイム黙想はしっかりできているが、「自分の清掃場所」という観点では、あまりできていない気がする。 ・ 教師も率先して清掃したほうが「後姿の教育」として必要だと思う。

令和6年度 小林市立南小学校 自己評価書

評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

NO. 3

学校経営 ビジョン	○ 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和6年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	--

〈体 育〉 ○ 健康や体力に関心をもち、自ら行動する児童の育成

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価		結果の考察・分析 及び改善策等
				取組別	総合	
体 育	1 体力・運動能力の向上 「体育の授業」「課題解決のための取組」	○体力・運動能力テスト県平均超え項目85% ※ R5…82%	◎ 体力・運動能力テスト県平均超え【87%】 ○ 体育主任を中心に体力向上プランをもとに課題が見られる運動領域について、体育科授業を中心に指導を行っている。また、運動しやすい環境の充実を図っている。 ○ 体育科授業での運動量の確保、持久走月間、なわとび月間の実施、外遊びの奨励等を行い、運動の日常化を推進させ、体力の向上を図っている。 ○ 働き方改革により、昼休みに児童と一緒に活動する職員が増えた。	3.46	3.52	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時期に応じて、いろいろな取り組みを全校でできていることが、体力向上につながっている。 ・ 体育専科の細かな仕掛けによって、体育や運動を楽しむ児童が増えた。
	2 姿勢等の指導の徹底 「立腰」「集団行動」	○立腰（全学年徹底）100%	○ 姿勢写真の各教室への掲示を行い、よい姿勢を意識させるとともに、全学年共通の号令をもとに始業、終業時の立腰指導の徹底を図っている。始業、終業時の立腰は全学年で徹底できているが、常時、よい姿勢を維持することは難しい状況である。 ○ 集団行動については、体育主任を中心に指導を行い、運動会においてもきびきびと行動することができた。	3.58		<ul style="list-style-type: none"> ・ 立腰指導については、授業の最初と最後は意識させることができた。 ・ 正しい姿勢を持続することが課題である。特に給食時間の姿勢やマナーが気になる。 ・ 「立腰」での足は床に付けるという指導を全学年で徹底する必要がある。
	3 家庭と連携した健康教育の推進 「疾病治療」「感染症対策」「フッ化物洗口」	○むし歯治療率80% ※ R5…60.7%	◎ むし歯治療率【68.7%】(1月末) ○ う歯については、フッ化物洗口や養護教諭による学級での歯みがき指導を行っている。治療勧告等も定期的に行い治療率の向上を目指している。 ○ 児童の手洗いや手指消毒、教室の常時換気等を習慣化させ、感染症対策の徹底を図っている。	3.34		<ul style="list-style-type: none"> ・ 養護教諭からの文書を家庭へ配布し、児童を通じて治療に取り組むように指導した。 ・ むし歯治療の保護者の意識は、高いところとそうでないところの差が大きい。 ・ フッ化物洗口は、軌道にのっている。 ・ 手洗い、うがいの呼びかけをしているが、ハンカチやちり紙忘れが多い。

令和6年度 小林市立南小学校 自己評価書

評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

NO. 4

学校経営
ビジョン

○ 南小学校の伝統を大切に、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。
令和6年度スローガン 『みんなてつくる みんなの南小学校』

〈食育〉

○ 食に関心をもち、自ら実践する児童の育成

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
食育	1 食に関する指導の推進 「食から始める健康『元気なみやざきっ子』食育推進事業」	○「生きた教材」としての学校給食の活用 ○「弁当の日」写真展への応募 ○食に関わる人に感謝する活動の工夫	○ 遠足時に「弁当の日」を設定し、発達段階に応じた取組をさせている。本年度は、南小まつりの時にも弁当の日を設定し、縦割り班で交流をさせた。 ○ 「弁当の日」の写真展への応募、5年児童が「味覚の授業」に参加するなど食に関する意識を高める活動を推進している。 ○ 「弁当の日」のドキュメンタリー映画の監督の安武信吾さんの講演会やドキュメンタリー映画の上映会を開催するなど食に関する啓発を実施した。	3.75	3.59	・ 「弁当の日」を異学年で交流できたことがよかった。 ・ 「弁当の日」の講演や映画鑑賞を行った。その効果として自分で弁当を作る児童が増えてほしいが、まだまだ少ないのが実情である。これからも継続的な取組が必要である。
	2 給食の時間の指導の充実 「準備から片付けまで」「偏食」「マナー」「残食」	○給食の準備、喫食、片付け等に関する指導の徹底 ○「偏食」「残食」「マナー」等に関する指導の徹底 ※ R5…残食0.1～1.4	○ 各学級で給食時間に「マナーカード」を提示し、食事前に確認することで、食事の望ましい態度やマナーの育成を図っている。 ○ 月毎に残菜調査を行い、残菜量を職員で確認し、残さず食べる意識を高めている。 ※ 残食率 0.8%（1月末現在）【0.2～1.4】	3.38		・ 給食の指導でフロアや学年、学級によって対応の違いが出た部分が多少あった。共通理解したことについては、全校でしっかり取り組む必要がある。 ・ 偏食がある児童も、給食で少しずつ食べられるようになってきていると感じる。
	3 食物アレルギーを有する児童への適切かつ確実な対応 「体制の確立」「対応の徹底」	○代替食等の確実な管理及び当該児童への適切な対応	○ 食物アレルギー児童への対応について、年度当初に実技研修を行うとともに、計画的に研修を行い、全職員で安全面に配慮して対応している。 ○ 宿泊を伴う学習の際には、旅行者や施設等との打合せを徹底し、事故防止を図っている。	3.68		・ 食物アレルギー研修を定期的に行うことで、全職員で共通理解のもと対応できている。 ・ 職員の意識が高く、二重、三重のチェック体制になっており、きめ細やかな配慮ができています。

令和6年度 小林市立南小学校 自己評価書

評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

NO. 5

学校経営 ビジョン	○ 南小学校の伝統を大切に、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和6年度スローガン 『みんなてつくる みんなの南小学校』
--------------	---

〈その他〉 ○ 服務規律の徹底と子どものための働き方改革の推進

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組状況	自己評価		結果の考察・分析 及び改善策等
				取組別	総合	
そ の 他	1 服務規律の徹底	○法令及び倫理等に反する行為ゼロの維持 ※ R5…なし	○ 定期的または必要に応じてコンプライアンス研修を実施している。 ○ 現時点で非違行為等はみられない。	3.81	3.59	・ 職員1人ひとりがコンプライアンス意識を高く持っていることにより、非違行為等はなかった。
	2 働き方改革の推進 「業務の精選」「SSS及び学習支援ボランティアの積極活用」「宿題改革」「起案～決裁の効率化」	○時間外勤務の削減 ・月平均時間外勤務45時間以上の職員数削減 ※ R5…45時間以上：延べ36名 60時間以上：延べ10名	◎ 月平均時間外勤務45時間以上：延べ21名 (1月末まで) 60時間以上：延べ1名 (1月末まで) ○ 業務精選、適材適所、校時程の改善、会議等の精選、ノー会議デー(金曜日)、宿題改革、決裁の工夫、教育スキルアップ研修、一部教科担任制、交換授業、第6学年副担任制、学習支援ボランティア(授業・事務)、SSS等々の取組により実態が改善した。	3.38		・ タイムマネジメントを行い、仕事をする職員が増えてきた。 ・ 業務の精選やボランティアや外部機関の連携等は、今後も継続していく必要がある。しかし、まだまだ地域や家庭と連携できる業務もあると思われる。